

# 図書館だより

町田市立図書館

2022年 第122号



## ～移動図書館「そよかぜ号」をご紹介します～

- さるびあ図書館 移動図書館「本を届けて50余年」
- 中央図書館 移動図書館の動画を撮影しました
- 鶴川図書館 今年2月、50年目に
- 木曽山崎図書館 45周年を迎えました
- 図書館員のつぶやき 「腑に落ちる」
- 連載：BMの窓から (第36回)「ヴィラ町田」
- 連載：まちだのQ? (第22回)「ぼたん園」

本を届けて50余年  
移動図書館そよかぜ号



町田市の移動図書館は、1970年（昭和45年）に誕生、10月の読書週間に合わせて運行を開始しました。

巡回場所では  
手続きに長蛇の列が！  
（1971年7月 山崎団地）

その後、車の数は3台に増え、現在は2台がさるびあ図書館から、残りの1台が堺図書館から、市内の59ヶ所に2週間に1度巡回運行し、本や雑誌をお届けしています。主な利用層は、遠くまで出歩くのが難しい高齢の方や、赤ちゃんと保護者といった方々ですが、新型コロナウイルスの感染拡大後、ステイホームの影響か、おうちでの読書の需要が高まって、以前より多くのご利用をいただいています。

定期的な巡回のほか、芹ヶ谷公園の多目的広場に行ったり、町田シバヒロのイベントに参加したりもします。図書館のホームページやTwitterでご案内していますので、お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

現在は雨・日よけの  
テントがあるので、  
暑い日も、雨でも  
運行できるんですよ ☺



## 移動図書館の宣伝動画を制作しました！

あまり図書館を利用しない方や若い人を中心に移動図書館をもっと宣伝したい！という思いから、今回、さがまち学生Club(※)に所属する大学生のみなさんと一緒にPR動画を制作することになりました。

10月9日(土)に芹が谷公園で約6時間にわたる撮影が行われました。事前に学生の皆さんに移動図書館の説明や実際に本を貸出しているところを見学してもらい、そこからイメージを膨らませた温かい作品をつくっていただきました。

出来上がった動画は「町田市公式動画チャンネル」にて公開中です！ぜひご覧ください！

町田市公式動画チャンネル

→<https://www.youtube.com/user/machidacitytokyo>



10月9日当日  
撮影の様子→



※さがまち学生Club→「学生の子カラでまちを盛り上げる」をコンセプトに、相模原・町田地域の学生が地域の活性化及びまちづくりに繋がる活動を企画・実施していく学生主導型体験プロジェクト。民間や町田市、相模原市の各団体とコラボレーションを行い、冊子や映像、イベントの企画・制作を行っている。

開館 45 周年

# 木曾山崎図書館

1976 年開館の、山崎団地の中にある身近で気軽に立ち寄れる図書館です。  
今年で開館 45 周年を迎えました。日常生活に役立つ実用書・読み物・雑誌・児童書を揃えており、地域の皆さんの憩いの場所にもなっています。



三角屋根が目印です  
目の前に大きな樺の木があります



木曾山崎図書館  
キャラクター  
やもたろ



木曾山崎図書館  
キャラクター  
やぎたろ



開館当時の入口の様子



開館 45 周年の特集コーナー

職員に聞きました

木曾山崎図書館のここが自慢！

- 木目が優しく、昔懐かしい雰囲気です。
- おはなし会が行われる 2 階のおはなしの部屋は秘密基地のようでワクワク！
- 3 世代にわたって利用者さんが訪れており、長い間親しまれています。



～50 周年を迎えられるよう、これからもよろしくお祈りします～



# 図書館員のつばやき

## 腑に落ちる

町田市出身の詩人に八木重吉がいます。以前、八木重吉の記事を新聞で読んだのを思い出し、探してみました。探していた記事は読売新聞2016年7月10日の日曜版に連載された「名言巡礼」です。



八木重吉の詩「草にすわる」の最後の1行「こうして 草にすわれば それがわかる」が紹介されています。この詩は3行の詩で、草の上に座って自分の間違いに気づくという詩です。記事を読んでいたら、谷川俊太郎が詩「間違い」で、この「草にすわる」を使っていることがわかりました。「間違い」は冒頭に「草にすわる」を置いて、“そう八木重吉は書いた（その息遣いが聞こえる） そんなにも深く自分の間違いが 腑に落ちたことが私にあったか”と続きます。

腑に落ちるという言葉は新しい使い方です。もともと、腑に落ちないという言い方が先にありました。以前、国語辞典で、そのことを知りました。谷川俊太郎の詩には「腑に落ちる」という詩もあります。

八木重吉の詩を読むと穏やかな気持ちになります。八木重吉の詩でおすすめるのは「素朴な琴」と「雨」です。「雨」は複数ありますが、“雨のおとがきこえる”で始まる詩が好きです。詩を音読すると楽しいです。ぜひ、八木重吉、谷川俊太郎の詩を声に出して読んでみてください。音読のよさが腑に落ちるでしょう。



【参考文献】『永遠の詩8 八木重吉』、谷川俊太郎「間違い」（『日々の地図』に収録）、谷川俊太郎「腑に落ちる」（『こころ』に収録）

## ～ BM の窓から ～

暑い日も、寒い日も、風の日も、雨の日も。

皆さんがいる限りBM（移動図書館車：Book Mobile）はあなたの元に。BMで訪れているサービス拠点をご紹介しますこの企画、第36回は『ヴィラ町田』です。



↑ 水色の建物が目印です。

今回ご紹介するのはBMステーションで最も西に位置する『ヴィラ町田』です。

出発館である相原の堺図書館から、町田街道を北西へ4km、高台にある介護老人福祉施設の駐車場脇に移動図書館は停車し、利用者を迎えます。主な利用者は施設入居者の方々です。杖をついてゆっくり歩いてくる方や、車いすでやってくる方が多く、付き添いの施設の職員さんとお話をしながら和やかに本を選ぶ姿がよく見られます。

もちろん近隣にお住まいの方のご利用もお待ちしています。高台にあるため、相原の景色が見渡すことができる気持ちの良い場所ですよ。

< ヴィラ町田巡回情報 >

住所 相原町4391-7 隔週火曜日10:20～11:00

移動図書館そよかぜ号は、雨の日も運行いたします。台風・雪などの日には安全面を考慮し運休することがあります。

# まちだのQ?

連載: 第 22 回

Q. 町田ぼたん園の牡丹は何種類くらい  
ありますか？



町田ぼたん園は、町田薬師池公園四季彩の杜、民権の森公園内にあります。園内には、約330種類1700株の牡丹と約60種類600株の芍薬が植栽されています。(2021年10月時点)

同園は1992(平成4)年4月にオープン、14,400㎡の広さがあり、近接の七国山に連なる比較的緩やかな、標高75~90mの南傾斜地に位置しています。そのせいか市販のガイドブックには「履き慣れた靴で歩きたい」と、一言添えられています。

実は町田には、それ以前にもぼたん園があったようです。『小田急五十年史』(1980年刊)によりますと、「遊休地の活用では、昭和54年(1979)4月20日、町田市の郊外相原町に開園した町田ぼたん園がある。市民の憩いの場ともなるものをということから計画された。・・・ぼたん園としては関東一の規模を誇っている。」とあります。『小田急75年史』(2013年刊)によりますと「・・・特に島根県大根島から移植した樹齢300年の長寿ボタンの南山の寿が、来園者の目を奪った。その後も年々施設の整備を図り、花木の数も種類も拡充されたが、新たな事業計画に伴って昭和61年、惜しまれながら閉園した。」とあります。

四季彩の杜周辺には他に、ダリヤ園、えびね苑、リス園等もあります。四季折々、散策してみたいはいかがでしょうか。

参考文献：『町田の公園とみどりガイド』『花散歩東京を歩く』  
『小田急五十年史』『小田急75年史』

2022年2月発行

この冊子は、700部作成し、1部あたりの単価は97円です。(職員人件費を含みます。)